

1 研究主題

導入を工夫し、生徒の興味関心を高める授業の研究
～感情を揺さぶる天気・天体分野を目指して～

主題設定の理由

(1) 生徒を取り巻く現状から

(前略)現在の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が求められており、生徒が主体的に学ぶ手段として、導入を工夫し、生徒の興味関心を高めることが有効であることは言うまでもない。学習の手段とし、「学びたい」「調べてみたい」という感情を揺さぶり、生徒の興味関心を高める授業を行うことで、主体的に学ぶ生徒の育成を図ることができると考えられる。

(2) 過去の研究成果から

(前略)事物や現象を見たときに、「なぜだろう」「不思議だな」と疑問をもつことは、科学を学習していく上で非常に重要であると考え。事物・現象について疑問をもち、その理由についての仮説を立て、実際に観察や実験をし、結果を考察して比較・検討することは探究的な学習の流れであり、疑問をもつことは探究的な学習のスタート地点となるからである。(中略)探求的な学習を行う手段として体系的に実感できる授業を行えば、地学分野がより好きになれるのではないかと考えた。その分野が好きになることで、主体的に学ぶ態度につながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

2 研究仮説

感情を揺さぶる体験をともなう導入を行えば
天気・天体分野の興味関心を高めることができるだろう。

(前略)教科書や映像教材だけではなく、見たり触ったりできる授業や授業の発問の工夫をすれば、その疑問を解決するような働きかけを教師側からでき、事象への理解が進むと考える。雲の発生を例に考えると、目の前で雲を発生させる「体験をともなう導入」を行うことで、生徒から「なぜ、雲が現れたのか」や「どうして線香の煙を入れる必要があったのか」などの疑問が生じることが予想できる。その、疑問を解決していこうとすると自ずと仕組みや規則性の理解につながっていく。そこで、興味関心を高めることができれば以下のように体系的な理解につながると考え、2つ目の仮説を立てた。

興味関心を高めることができれば体系的に
理解できるようになり天気・天体分野を好きになるだろう。

先の仮説の過程で出てきた「気圧が変化している」や「凝結核が必要」などの個々の知識を課題解決のために整理し、順序立てながらまとめていく。それこそが、体系的に理解するということである。(中略)本研究ではこの、「なぜだろう」「不思議だな」と疑問を持ち、「疑問が解決できることで『楽しい』などのポジティブな感情をその分野に持てることがその分野を好きになった」と定義する。最終的には体系的に天気・天体分野の理解に繋がり、その分野を好きになることができるのではないかと考える。リアルな事象を体験してもらうために本研究では地学分野の天気・天体に絞り研究を行う。

3 研究計画(3年計画)

令和5年度(2023年) (1年目)	<ul style="list-style-type: none">・教員対象および生徒対象の実態調査・教職員アンケートからの分析、考察
令和6年度(2024年) (2年目) ※今年度の研究内容	<ul style="list-style-type: none">・仮説の検証・授業プランの作成、実践・生徒アンケートからの分析、考察・課題把握につながる、導入の工夫と教材化
令和7年度(2025年) (3年目)	<ul style="list-style-type: none">・実践からの課題解決・実態調査と評価・研究のまとめ

4 研究内容

(1) 教師アンケート(省略)

(2) 教師アンケートの結果・考察(省略)

【以下、今年度今後の流れ】

(3) 授業プランの作成

研究員の先生方と協力し、順次作成

(4) 生徒アンケートの実施

地学分野の開始に合わせて実施